

◆ 桜の木 ◆



1年生の、ある教室のベランダに桜の木がある。
まだ鉢植えの段階の若木。少し強い風が吹くとゆらゆらと揺れて、何とも心許ない。

2, 3年経つと花が咲くと聞いて、担任のH先生が準備したとのこと。

(全国どこでもそうだろうが) 今年度は、高校1年生にとって甚だ不安定な船出であった。大きく育ち、彼らの卒業時に、小さくてもいいから可憐な花をつけて欲しいと願う。

さて、その桜。万葉の昔から多くの文学作品のモチーフとなった。近現代でも坂口安吾や梶井基次郎、最近ではライトノベルといわれる分野でも数多くの文学作品で描かれる。森山直太郎さんの『さくら(独唱)』は、この時期の定番ソングである。

日本人の心の拠り所のような感もあるが、やはり春朧の頃の風景は何ともいえない雰囲気醸し出す。新海誠監督の手になる『秒速5センチメートル』で描かれる桜は、とてもリアリスティックだ。ストーリーも何やら機微に富んでいる。桜は、人の繊細な心の襞を表現するのに相応しい花だと思う。

鉢植えの桜は、育つにつれて植え替えが必要と聞く。彼らは、日々大きくなる桜の木とともに、心も育っていくことだろう。H先生は、「いつか、校庭のどこかに植え替えたい」と言っていた。その様子を想像するととてもワクワクする。ゆくゆくは、このような木(→)に育て欲しいと願う。

最近は、また感染増加のニュースが大きく報道されている。ひととき桜を愛で、心静かに過ごせる日々を待ちわびたい。

